

「宮城県における RS ウイルス感染症の後方視的疫学調査」

1. 研究の対象

2022年1月～2022年12月に宮城県内の特定医療機関※でRSウイルス感染症の診断で入院加療を受けられた方

※東北大学病院、仙台市立病院、大崎市民病院、仙台赤十字病院、国立病院機構仙台医療センター、東北公済病院、東北労災病院、東北医科薬科大学病院、みやぎ県南中核病院、石巻赤十字病院、
*当院 仙台赤十字病院も参加しております。

2. 研究目的・方法

RSウイルス (respiratory syncytial virus:RSV) は年齢を問わず生涯にわたり感染を起こしますが、特に乳幼児期において非常に重要な病原体であり、生後数週から数カ月の期間に最も重症な症状を引き起こします。低出生体重児や心肺系基礎疾患、免疫不全のある場合には重症化のリスクが高いことが知られています。例年流行時期は秋から冬にみられていましたが、ここ数年は流行時期が早まる傾向が報告されており、予防目的のパリビズマブ接種開始時期の判断を一層困難にしている現状があります。2021年は、例年よりも早い6月から7月にかけて全国的な流行拡大を認め、過去6年間で最大の流行となりました。2021年におけるRSV感染症の流行は、国内のみならず海外でも認められており、COVID-19の流行下にも関わらず他のウイルス性呼吸器感染症の動向とは異なりRSV感染症のみが増加したことは、サーベイランスの継続や発生予防の重要性を示しています。以上を踏まえ、2021年に宮城県におけるRSウイルス感染症の後方視的疫学調査を行いました。2022年も同様に、引き続き調査を行います。本研究は、2022年シーズンの宮城県内におけるRSVのより詳細な流行状況および個々の臨床的特徴についてのデータを電子カルテから集積し、考察することで、来年度以降の診療に繋げることを目的としています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、入院時の身体所見、行われた治療の内容 等

4. 研究期間

2022年1月1日～2022年12月31日

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒982-8501 仙台市太白区八木山本町 2-43-3

TEL：022-243-1111

仙台赤十字病院 小児科

研究責任者：浅田 洋司